

I

■出題のねらい

複素数, 対数関数, 確率などに関する基本的な問題で, 知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) 複素数に関する問題を苦手とする人が多いためか, 正答率は約50%でした。また, $a=0$ または i を代入すると, z は明らかに実数になるので, (与えられた条件「 $a > 0$ 」を無視して) 誤答を答えた人が多くいました。
- (2) 対数関数に関する基本的な問題です。正答率は約60%でした。
- (3) 因数定理により, 3次式が因数 $(x+2)$ をもつことに気がつけば解ける問題です。あまり出来はよくありませんでした。
- (4) 素数が書かれたカードが5枚, そうでないカードも5枚であることに気がつけば, 容易に解ける問題です。正答率は約70%でした。

II

■出題のねらい

数列およびベクトルについて, 基本的な事項を問いました。

■採点講評

- (1) よくできていました。数列の基本事項を理解していれば完答できる問題でした。
- (2) この問題もよくできていましたが, 計算量が多いためか, ケアレスミスも見受けられました。オの値が(6以外の)どんな値であってもカの正答は $\frac{3}{5}$ と導き出すことができます。

III

■出題のねらい

- (1) 媒介変数表示された曲線について，基本的な事項を問いました。
- (2) 関数の最大値を題材に，正しく場合分けをできるかを問いました。

■採点講評

- (1) (i), (ii) の計算はよくできていましたが， $\frac{dx}{dt}$ ， $\frac{dy}{dt}$ ， $\frac{dy}{dx}$ の記号の意味を理解していない解答もありました。(iii) の曲線の長さの問題は，途中まででやめちゃう解答が目立ち，正答率は高くありませんでした。
- (2) (i) の微分計算はよくできていました。
(ii) については，場合分けが不十分な解答や理由説明のない解答が目立ちました。完答している人は多くありませんでした。説明文は正しく記述できるようになりましょう。

IV

■出題のねらい

対数関数を題材に，微積分の基本的事項と極限について問いました。

■採点講評

- (1) よくできていました。
- (2) $y' < 0$ であることを示さない解答が多く見られました。
- (3) 部分積分の計算を間違えている誤答がありました。また，わかっているはずの交点を再び求めようとする解答が見られました。
- (4) $S(p)$ の式を簡単にできず，最後までたどり着けない解答が多く見られました。

V

■出題のねらい

図形と方程式，定積分の問題で基本的な知識と計算力を問い，集合と論証の基本的な知識を問いました。

■採点講評

- (1) 点Bの座標を求める問題は非常に基本的なものですが，誤答が多く見受けられました。また，点Pと対称な点Qの軌跡を正しく求められた人は約50%でした。2曲線で囲まれた図形の面積を正しく求められた人はかなり少なかったです。
- (2) 正解した人が多かったです。個数が1つ間違っていたり，積集合と和集合が逆になっている誤答が少し見受けられました。
- (3) この種の問題に慣れていない人が多かったようです。10以下の各自然数に対して(小さいものから順に)命題 p ， q が成り立つかどうかについて粘り強く考えれば正答できる問題です。あまり正答率は高くありませんでした。

VI

■出題のねらい

微分，極値，方程式の解の存在条件に関する問題で基本的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) よくできていました。
- (2) 多くが正答にたどり着いていましたが，増減表が未完成であったり，不正確であったりしたために間違い，減点対象になっている解答も複数ありました。
- (3) 多くの人ができていましたが，計算違いが散見されました。
- (4) (2)で求めた極値(極大値)が利用できることに気がついた人の多くが正答にたどり着いていました。計算違いに注意して導出し，検算も忘れないようにしましょう。

I

■出題のねらい

力学に出てくる基本的な用語を理解しているか、円運動や相対運動、非慣性系での運動を理解しているかを問いました。また、グラフの読み取り、直感的な洞察力も試しました。

■採点講評

(1)は力学の基本的事項を語句で問いました。ほとんどの人が正答を出すと期待していましたが、すべて正答した人は全体の50%以下でした。具体的な計算をするためには物理量の定義や意味をしっかりと理解する必要があります。特に物理が苦手という人は一つひとつ丁寧に論理構成をとらえてください。

(2)はスペースコロニーを題材にして慣性系と非慣性系での運動の違いを理解しているかを問いました。まず問題を読んで設定をうまく捉えられたかが鍵になります。文章の内容を短時間で把握することも重要ですので普段から練習するようにしましょう。最初の方は単純な等速円運動の問題で、多くの人できていました。問7は3択だったにもかかわらず、正答率は約20%でした。難しそうな問題ですが、小球の速さとコロニーの回転の速さを比較すれば容易に導き出すことができます。落ち着いて取り組んでください。問8は図を描く問題です。他の問題もそうですが、慣性系の観測者Bの立場で考えれば自然に正答を導くことができます。また、図やグラフの問題は特に丁寧に描いてください。直線は直線、曲線は曲線で、どの点を通るのかなど採点の基準となります。理工系の大学を受験するうえで最低限のルールは守るようにしましょう。

(3)は万有引力を受けた運動の解析です。月の運動方程式が与えられていてそれほど難しくありませんが、コロニーは地球と月の両方から万有引力を受けているので、それぞれの距離の関係や力の向きを間違えている受験者が多くいました。問10は数値を求める問題で、グラフの読み取りも入れました。出題の意図を理解してその通りに計算していけば正答にたどり着けます。単位をつけ忘れている、有効数字が3桁になっている、指数部分の計算ができていない、などのミスには十分注意してください。

いずれも、問題を注意深く読めば正答にたどり着くことができます。公式をそのまま当てはめるのではなく、基本的なことを理解して自分で考える学習をしてください。

II

■出題のねらい

前半は水素原子のモデルを用いて電子の運動方程式や全エネルギーを求める問題、後半は量子条件と振動数条件より電子の軌道半径や全エネルギーを導出し、最終的に基底状態の電子を取り出すためのエネルギーを計算する問題です。電磁気学、力学、原子物理学の基礎知識と計算力が必要です。

■採点講評

(1)は、静電気力に関するクーロンの法則の理解を問う問題です。[ア]～[ウ]のいずれも高い正答率でしたが、問題文に与えられていない記号を用いた解答が10%弱ありました。

(2)は、水素原子のモデルを用いて、原子核の周りを等速円運動している電子の運動方程式や全エネルギーを式で示す問題です。電子が静電気力を向心力として円運動していることから運動方程式を立て、さらに、電子の全エネルギーが電子の運動エネルギーと位置エネルギーの和で与えられることを式で示し、運動方程式より、全エネルギーが電子と原子核との距離 r に反比例する式を導出する問題です。[エ]、[カ]は公式として覚えていたためか、正答率が60%、70%と高かったですが、[オ]、[キ]は約30%、[ク]は約20%しかありませんでした。問題文に「電子の位置エネルギーが負であることに注意」と注釈があるにもかかわらず、[キ]の符号を誤っている解答が目立ちました。イオン化エネルギーの大小を問う[ケ]の正答率は約60%あり、イメージしやすかったのかもしれませんが。

(3)は、原子物理学に関連する内容です。前問(2)の[オ]と[ク]が正しく解答できていれば、問題文の誘導に従って数式を当てはめていくことで、基底準位にある電子を取り出すためのエネルギーを計算することができます。[オ]と[ク]の正答率が低かったため、結果的に、[コ]の正答率が30%弱、[ク]の正答率が20%弱と低い結果でした。最後は本文で与えられている数値を用いてイオン化エネルギーを計算する問題でしたが、正答率は約10%でした。

III

■出題のねらい

熱と気体に関する基礎的な事項である，気体の状態方程式，気体状態変化の相図，気体が外部にする仕事，熱力学第1法則などを問いました。 p - V 図が正しく描けるか，気体がした仕事の意味なども問いました。また，式の計算能力も見ました。

■採点講評

問1)は気体の状態方程式から気体の温度を求める標準的な問題でした。アはピストンにはたらく力のつり合いから気体の圧力を求める問題であり，イは気体の体積をピストンの移動距離を用いて表す問題でした。問1)，ア，イはいずれも標準的な問題でした。正答率はいずれも約80%でした。ウはアとイの結果を用いて式の計算ができるかを見ています。ウの正答率も約80%でした。

問2)は気体状態変化の相図が正しく書けるかを見ています。①式を見れば状態変化の p - V 図は直線であることが容易に分かりますが，正しく直線で描かれていない解答が散見されました。問3)は気体がした仕事 p - V 図上でどの面積に相当するかを問う問題でした。問2)，問3)の正答率はいずれも約50%でした。

エは問3)で求めた p - V 図の下の面積から気体のした仕事を計算する問題でした。正答率は約30%と低かったです。問4)は仕事の一部がばねの位置エネルギーとしてばねに蓄えられていることを問う標準的な問題でした。しかし，適当ではない表現の解答が多くみられ，正答率は約40%と低かったです。オは熱力学第1法則を用いて熱量を求める問題でした。オの部分は単原子分子理想気体の内部エネルギー上昇分に相当するエネルギーです。オの正答率は約50%でした。

物理の現象を理解するうえで，基本的な法則を把握しておくことは重要です。教科書でそれらをしっかりと理解しておいてください。そのうえで作図や式の計算もできるようにしてください。

I

■出題のねらい

加水分解反応と中和滴定に関する基礎的な知識および計算能力を問いました。

■採点講評

加水分解反応および中和滴定に関する基礎知識を問う問題です。この分野に関する問題は、過去にもよく出題されており、受験者が必ず理解しておくべき項目です。受験勉強において、多くの演習問題に取り組むことで理解を深め、基本的な用語、確実な計算能力を身につけることが望まれます。(1)～(3)は、必ず正解すべき基礎的な問題です。(1)については、「食媒」「飾媒」「触培」「蝕媒」等の漢字間違いが散見されました。(2)については、「ホールピペット」と「ビュレット」を逆にしている解答が多く見られました。また、単に「ピペット」「駒込ピペット」との誤答が目立ちました。ピペットの種類と、その目的・精度を理解しておく必要があります(フラスコについても同様に、メスフラスコ、三角フラスコ、丸底フラスコ等、その違いを理解しておく必要があります)。(3)については、「メチルオレンジ」との誤答が散見されました。残念ながら、(1)～(3)の正答率は高いとは言えませんでした。加水分解反応および中和滴定は化学の基礎であり、しっかり理解していなければ、大学化学についていくことが困難になると予想されます。(4)～(10)は、計算能力を問う問題です。問題を落ち着いて読み、丁寧に採点者が解読可能な数字を書き、解答することが望まれます。基礎的な計算問題でしたが、正答率はかなり低かったです。今後、化学の道を歩むことを希望している受験者は、全問正答することが望まれます。また、「有効数字」2桁で解答できていない人が目立ちました。「有効数字」の意味を理解しておきましょう。

II

■出題のねらい

化学実験を題材として、金属イオンを含む溶液の反応と生成物について問いました。

■採点講評

基礎的な問題でしたが、正答率はかなり低かったです。知識を問う問題として出題していれば、正答率は高かったと思われます。化学反応は、知識として覚えるのではなく、実際の実験を通して覚えましょう。

(1) は、比較的よくできていましたが、10倍量の解答も多くみられました。正しく式を立てて、計算してください。濃度計算の基礎的な問題ですので、しっかりと学習しておいてください。(2) は、ほとんど不正答でした。解答群1の中から選択するので、解答群1のそれぞれの化合物から生成する物質をまず考えればAgBr, AgCl, AgF (水溶性), AgI, AgNO₃ (水溶性), Ag₂O (←AgOH) となり、この中で黄色、淡黄色、白色の沈殿を考えれば化合物A～Cと容易に答えられたはずでした。(3) は、ほとんど不正答でした。化合物CをKOHと考えていない限りは、(2) が間違っているにもかかわらず正答できたはずでした。「0.20mol/Lの硝酸銀水溶液から1.0mL取り出すと、Ag⁺は計算上何mol入っているか」という質問と同様だったのですが、桁の違う解答が多かったです。(1) 同様、正しく式を立てて、計算してください。(4) は、(2)の化合物Cの正答者はよくできていました。(5) は、大変よくできていました。(6) もよくできていました。(7) は、あまりできていませんでした。濃度計算の基礎的な問題ですので、しっかりと学習しておいてください。(8) 銅の錯イオンの中で、テトラアンミン銅(II)イオン[Cu(NH₃)₄]²⁺は最も知られている錯イオンです。しかし、①配位子NH₃がNH₄になっている、②配位子NH₃の数が4でなくそれ以外の数になっている、③錯イオンの電荷が+2でなくそれ以外になっているなど、[Cu(NH₃)₄]²⁺自体を記載できていない解答がほとんどでした。「硫酸銅(II)水溶液にアンモニア水を過剰に加えた時に生成する錯イオンは何か」という質問であれば正答できたと思われますが、化学反応は、知識として覚えるのではなく、実際の実験で覚えるようにしましょう。(9) は、あまりできていませんでした。①ともう1つの計2個の番号を解答している人が散見されました。

III

■出題のねらい

一つの含酸素有機化合物を取り上げ、その完全燃焼により得られた二酸化炭素と水の量、および与えられた分子量から分子式を計算により求め、さらにその分子式、関連する反応ならびに物性に関する情報を手掛かりとして課題の有機化合物を特定し、その構造、名称並びにその関連事項を問う有機化学分野の基本的な問題です。基礎的な有機化合物の反応と物性を理解するとともに、その名称と構造式を正確に書くことを要求しています。

■採点講評

(1) と (2) は炭素、水素、酸素のみから成る有機化合物の完全燃焼で得られる二酸化炭素と水の量から実験式を求め、さらに分子量を手掛かりとして分子式を導く問題です。有機化学分野の計算問題としては最も基礎的であり、入試ではよく出題される範囲です。で確実に得点できるように準備しましょう。大変よく出来ていました。(3) は目的の有機化合物の物性に関連した問題で、目的化合物を特定するためのヒントを与えています。(4) は分子式と与えられた物性を手掛かりとして、目的化合物を特定し、その構造と名称を問う問題です。(5) は、目的化合物がシス・トランス異性体であることを示すことによって、(4) の解答を導き出すヒントになっています。(6) の解答には、シス・トランス異性体及び光学異性体の定義、さらにそれらに属する代表的な化合物の名称を知っていることが要求されます。(4) ~ (6) は正誤の差が明らかについた問題です。構造式の誤答の中には、元素の数はあっているものの明らかに結合位置が間違っているものも多く見受けられました。また、この問題では、シス・トランス異性体として、マレイン酸とフマル酸の名称と構造式を問うていますが、シス体とトランス体を逆に書いている解答が相当数ありました。有機化合物の名称、構造式、物性を個別に覚えるのではなく、さまざまな知識を相互に関連させて理解しておくことが重要です。

いずれも有機化学の基礎知識があれば解ける問題ですが、よく出来ていた人とそうでない人の差がはっきりしていました。

生物

生物の入試問題を出題するにあたっては、教科書の内容を順守しつつ、基礎的な知識とそれを応用する能力を試す問題を作成することを意識しています。まず、教科書の内容について基礎的な知識をしっかりと固めたうえで、問題集などを利用して応用力を身に着けるようにしましょう。本学の生物の入試問題は、教科書の内容を順守するよう作成されており、まずは教科書の内容をしっかりと勉強し、理解して頭に入れることが何より重要です。教科書で取り上げられている実験、図表、話題なども丁寧に学習してください。A2日程では「効果器」、「呼吸」、「顕微鏡の使い方」、「生態系と生物多様性」、「個体群とその変動」を中心に出题しました。

I

■出題のねらい

(1) では、ほ乳類の筋肉についての基本的な知識と理解度を確認するために、骨格筋が収縮する仕組みや筋肉とそれを支配する神経との関係性について問う問題を出題しました。(2) では、筋収縮とエネルギーとの関係性についての基本的な知識と理解度を確認するために、呼吸における3つの反応過程(解糖系、クエン酸回路、電子伝達系)について問う内容になっています。(3) では、光学顕微鏡を用いた生物実験についての基本的な知識と理解度を確認するために、正誤問題や計算問題を通じて「顕微鏡の使い方」や「顕微鏡観察による試料の分析方法」について問う内容になっています。

■採点講評

正答率は約50%でした。(1)の最初の穴埋め問題では、骨格筋に関する教科書的な基礎知識を問いましたが、正答率は低くなりました。[3]では正答の「アセチルコリン」ではなく「ノルアドレナリン」を選んだ解答が多かったです。どちらも代表的な神経伝達物質ですが、神経筋接合部で使われるのはアセチルコリンですので注意してください。[4]では、正答の「T管」より「微小管」を選んだ解答が2倍以上見られました。同じ「管」ですが、「T管」は筋繊維の膜が伸びたものであるのに対し、微小管はチューブリンタンパク質で作られる細胞骨格であり、全く別のものです。[6]～[8]の、カルシウムイオンがトロポニンと結合してトロポミオシンの働きが阻害されることについても、正答率が低かったです。これらは、筋肉の働きの基礎となる部分なので、必ず正確に覚えておきましょう。[12]～[13]は反射に関する基礎的な問題ですが、正答率は高くありませんでした。反射は我々が生きるために必要なことを無意識に行うために非常に重要です。反

射にはいろいろな種類があるので、それぞれが何を介して行われるかを整理しながら学ぶようにしましょう。屈筋反射は（延髄ではなく）脊髄を中枢として、感覚神経からの情報が脊髄の介在ニューロンを介して運動神経に伝わります。一方、しつがい腱反射では、同じく脊髄を中枢としますが、筋紡錘からの情報を伝える神経線維は、介在ニューロンを介すことなく直接運動神経とシナプスを作ります。この違いに注意しましょう。

（2）では、筋収縮について、代謝の面から問うています。1）の筋収縮のエネルギーに関しては、ATPだけでなくクレアチンリン酸が重要です。クレアチンリン酸がクレアチンに分解されることでエネルギーが発生してATP合成が促進されます。教科書的な知識ですが、正答率は低かったので、気を付けて勉強しましょう。4）では、呼吸における電子伝達系について問いました。FADH₂は電子伝達系に電子を供給する重要な分子ですが、NADH₂と異なって、解糖系では合成されませんので注意してください。

II

■出題のねらい

(1) では、生物多様性の概念について、種多様性指数の計算、種多様性の持つ構造などについて視覚的に理解できるかを見ています。

■採点講評

正答率は約55%でした。(1) の [28], [29] は教科書では見かけない計算問題だったせいか、正答率は低くなりました。[28] の a 湖はほとんど魚類イで占められているので、それだけで計算すれば、結果は③の1.1が一番近いことが予測できます。[29] は、式【1】の分母は $(40/100)^2 + (30/100)^2 + (20/100)^2 + (10/100)^2 = 16/100 + 9/100 + 4/100 + 1/100 = 30/100$ となり、分子は1なので、結果は⑧の3.3になります。(3) の穴埋め問題では、[36], [37] および [39], [40] の具体的な樹種名に関する問題の正答率が低かったです。[36], [37] のクヌギとコナラは雑木林の落葉広葉樹の代表として、[39], [40] のスダジイやシラカシは常緑広葉樹、照葉樹林の代表として、ぜひ覚えておきましょう。本学の入試問題で具体的な名前を聞くときは、教科書で取り上げられているものを中心に選んでいます。そのため、教科書で見かけた動植物名をリストアップして、それらの特徴を整理する習慣をつけるとよい対策になるでしょう。[42] では原生林について聞きました。原生林がどのように維持されているかについては、教科書でも説明していますが、今回のような聞き方は少し難しかったようです。原生林に大きなギャップが生じるとそこに太陽光が入るので、光条件の良い環境下で陽樹が育ちます。そのあと陰樹に入れ替わり、もとの原生林に戻ります。ただし、倒木などで発生した狭いギャップでは十分な太陽光が得られないので、少し暗くても育つ陰樹の稚樹が成長してギャップが修復されます。原生林が維持されるには、すべての個体がそのまま樹齢を重ねるのではなく、後継樹に更新されることが必要ですが、原生林の中には幼木の生育が不十分で、親樹が一定樹齢になっても交代が起こらないものも見られます。(4) では、個体群間の関係について聞きましたが、片利共生と寄生を混同している解答が多かったです。片利共生は一方が利益を得て、他方には悪影響を与えない関係です。それに対し、寄生では他方が不利益を受ける関係となります。

I

■出題のねらい

日常的な会話の内容を正確に理解する問題です。2者のやりとりの流れを見失わないようにしながら、細かい情報を読み取ります。テーマは「レストランでの会話」です。2人が共通の友人について話していますが、注意深く読み、どのような人物なのか正確に把握しましょう。

■採点講評

普段の会話には、様々な話題が入れかわり立ちかわり出てきます。この問題ではJohnが実践していた一風変わった食餌法とその挫折について、しっかりと理解できるかどうかポイントでした。□4と□5の正答率が思わしくありませんでしたから、全体把握に苦戦した人も少なくなかったようです。特に英問英答の問題では、同じ内容も違った表現に言い換えられますので注意が必要です。

II

■出題のねらい

音楽大学の練習室と録音スタジオの貸し出しに関する案内ポスターを読み、ポイントとなる情報を的確に読み取る力を問う問題です。練習室と録音スタジオそれぞれの特徴や貸し出しの条件について、情報の多さに惑わされず、必要な部分を素早く見つけ出しましょう。

■採点講評

全体としてはよくできていましたが、□10の正答率が低かったです。ここでは“condition”という単語が重要なポイントです。「コンディション」というカタカナ語の意味とは違い、「条件」という意味で用いられています。カタカナ語として定着している単語も、英語としては多様な意味を持っているケースがよくあります。カタカナ語にはくれぐれも注意しましょう。

III

■出題のねらい

地球温暖化に関わる英文です。単に地球の気温が上昇するというのではなく、アメリカやブラジル、地中海沿岸地域など、国・地域によっては上昇の度合いがさらに大きくなるという最新の予測を紹介しています。英語の基礎的読解だけでなく、理系に必須の数値を伴う表現やグラフ情報の的確な把握など、複合的な理解力が問われます。

■採点講評

全体的に正答率は悪くありませんでしたが、15の正答率がよくありませんでした。選択肢はどれもありそうな内容ばかりですので、本文をしっかりと読んで、深く理解できているかどうかポイントとなりました。正答は③でしたが、誤って②を選んだ人が多かったです。

IV

■出題のねらい

携帯電話の普及に伴い廃止されていた公衆電話を、今後の震災に備えて復活させようという、ある市の取り組みに関する内容です。数字を含む情報の詳細を正確に読み取れるかが問われる問題です。情報の流れに沿って的確な語句を選べるか、基本的な語彙に習熟しているか、語法を理解しているかを問う基本的な問題となっています。

■採点講評

身近なテーマだったせいか、選択肢が日本語の文章で示されている問題の正答率は比較的高かったです。ところが選択肢が英文の22は、正答率がかなり低かったです。このタイプの問題では、選択肢に使用されている単語を手掛かりに、本文の該当箇所をじっくり読むことが大切です。同じことを別の言い回しで表現することもありますから、単語・熟語の力も必要となります。単語を覚えるときに同意語も一緒に覚えるようにすると効果的です。

V

■出題のねらい

エスカレーターの片側に乗ることや、走ったり歩いたりすること、前の人との間隔を空けないでエスカレーターに乗ることは事故に繋がる可能性があるということで、鉄道会社がマナー・キャンペーンを行っているという話題について述べられています。論の流れをつかみながら読めているかどうかを問います。

■採点講評

全体的にまずまずの出来でしたが、27の正答率がよくありませんでした。正答は⑤ですが、誤って②を選んだ人が多かったようです。単語は決して難しいものではありませんから、基本的な構文をもう一度確認しておきましょう。

講評

I

出典 渡辺 裕「日本文化 モダン・ラブソディ」

大正から昭和期の日本近代文化の変遷について音楽を中心に論じた本です。本文はやや長いですが、特に内容的に難しいことは書かれていませんので、内容の理解は容易でしょう。

問1【漢字の書き取りの問題】(解答番号は①～⑤)

「机上」はほとんどの人が書けていましたが「大所高所」の正答者はごく少数でした。

問2【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】(解答番号は⑥・⑦)

空欄Ⅰは「取り合わせは…ミスマッチ」「甥の士行の誘い」が、空欄Ⅱは「エールを送っている」がヒントとなります。正答率はそれぞれ51%、30%でした。

問3【空欄補充問題・前後の文脈から適当なものを選ぶ】(解答番号は⑧)

第1段落に逍遙の甥・士行が宝塚少女歌劇のスタッフであったことが書かれており、逍遙自身も宝塚に対して期待していたことを踏まえれば正答できます。正答率は28%でした。

問4【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は⑨)

第6・7段落をよく読んで選択肢を十分に吟味すれば正答が導けます。正答率は39%でした。

問5【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は⑩)

傍線部Bの4行前から本文をよく読めば難しくありません。正答率は68%でした。

問6【指示語の内容を考える問題】(解答番号は⑪)

前後をよく読めば指示語の内容は容易につかめるはずです。正答率は66%でした。

問7【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は⑫)

傍線部Dの2～4行先の説明がヒントとなります。正答率は76%でした。

問8【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は⑬)

直前の文の内容を十分に踏まえれば正答が得られます。正答率は72%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は⑭)

傍線部Fの直後に書かれていない選択肢を選べばよいだけです。正答率は65%でした。

問10【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は⑮)

③を選んだ人が多数いましたが、「国際性に富んだ」が本文の内容と異なります。直後の2つの文を丁寧に読めば正答が導けるはずです。正答率は27%でした。

問11【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は16）

②あるいは④を選んだ人が多数いました。この節では「日本の歌劇」や「歌舞伎劇の『国際化』」よりも坪内逍遙と宝塚少女歌劇の関係とりわけ逍遙の宝塚少女歌劇に対する期待や評価を中心的に取り扱っています。本文を丹念に読んで、この点を押さえることができれば正答は③だと導けます。正答率は7%でした。

問12【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は17）

この節をよく読めば宝塚歌劇と歌舞伎改良を中心に話が展開していることがわかるはずですので、正答は導けるでしょう。正答率は35%でした。

問13【内容合致問題】（解答番号は18・19）

正答率は⑦が44%、⑧が34%でした。①や②、④を選択している受験者が散見されました。①は「ストーリーの支離滅裂さを克服さえすれば」が、②は「坪内逍遙から受けた影響」が、③は「宝塚少女歌劇の『歌舞伎改良』路線に触発されたため」が本文の内容に合致しません。④は「初めて」、⑤は「純粹西洋式のオペラに改良」が本文の内容と相違しています。⑥は「成熟した男女による本格的歌劇への展開を目指していた」が、⑨は「あくまで『商売人』としての理由から」が不適切です。

II

出典 川崎 謙 著「神と自然の科学史」

「科学」と「技術」との関係について述べた文章です。日頃からよく聞く言葉ですが、それを異なる観点で使用しているのが、受験者の中には戸惑いを覚えた人もいたようです。しかし、限られた試験時間とはいえ、「科学」「技術」がそれぞれ文章中で何に置き換えて説明されているかを読み取れば、内容自体は難しくありません。

問1【漢字の書き取り問題】（解答番号は20～26）

a 素朴 b 精魂 c 洗礼 d 内省 e 言及 f 融通 g 周到

いずれも難解な漢字ではありません。なお、出題の傍線部カタカナを読み間違えている人がいました。焦って書く必要はありませんので、落ち着いて解答しましょう。書き取りの練習を日頃から心掛けるようにしましょう。

問2【空欄補充・文脈把握】（解答番号は27～30）

空欄Ⅰは次節の3段落にある「認識が技術化されたことにあり」を押さえれば、正答は導けます。正答は①です。空欄Ⅱは同節を読めば正答は④となります。空欄Ⅲの次段落に「この感じ～ふさわしいものです」とあるのがヒントです。正答は③です。空欄Ⅳは前文の理由となっているので正答は⑥となります。

問3【空欄補充・文脈把握】（解答番号は31）

「梘子の制作は技術」「梘子の便利さは梘子の原理の説明などとは無関係に普遍的」と直前にあります。空欄アは「技術」に関わることを述べており、正答は⑥です。正答率は44%でした。

問4【文脈把握と内容理解】（解答番号は32）

技術は「何かを作ること」であると問題文冒頭に書かれており、「複製を作る」とは技術のことです。これを踏まえれば正答は④です。なお複製を作ることは融通無碍ではありません。

問5【文脈把握と内容理解】（解答番号は33）

傍線部Bの直後の段落が理由になっています。この内容に沿っている選択肢④が正答です。①「手近」②「基盤は非常にもろく」③「権威付けのため」⑤「見えるような形にする」⑥「必然的」が、それぞれ本文では言及されていない箇所です。正答率は55%でした。

問6【文脈把握と内容理解】（解答番号は34）

梘子は実物が存在してから理論ができたということが本文中で述べられているので、その内容と対立する選択肢が正答です。正答率は54%でした。

問7【小見出し・内容把握】（解答番号は35）

これまでの文脈と異なり、技術から認識ではなく、認識から技術という流れもあることを本段落では述べています。正答は④です。正答率は25%でした。

問8【内容合致問題】（解答番号は36・37）

正答は④・⑦です。②「科学は軽んじられている」③「西欧自然科学の傍流に」、⑤「どこの国の人よりも深く知ることができる」⑥「成果が認められる可能性は低い」がそれぞれ間違いです。2問とも正答した人は27%でした。